

新基地建設反対名護共同センターニュース

護岸着工1年「私たちはあきらめない」 海と陸から最大規模の抗議行動を展開

ロックバンド新月灯花の4人が「誰かの贅沢のために殺されたくない」を披露、大きな拍手が (24日)



稲嶺氏(中央)も引き抜かれ「臨時拘置所」に囲われました。稲嶺氏を中心に「私たちは諦めない!」と氣勢を上げる座り込みの参加者 (25日)



座り込み前で挨拶する稲嶺前名護市長 (26日)



機動隊員と装甲車の数が日増しに増え、座り込みへの干渉が激しくなっています (26日)



今週、辺野古ゲート前で連日7、800人規模で「違法工事は中止せよ」と抗議の声が響き渡っています。25日も800人が座り込んで抗議。稲嶺進前名護市長も参加し機動隊に引き抜かれ、「臨時拘置所」に囲われました。しかし、囲いの中で稲嶺氏は「抜かれたら早苗のようにまた植えればよい。私たちは決してあきらめない」と挨拶し、大きな歓声と拍手に包まれました。

エスカレートする機動隊の干渉にめげず
連日、7、800人の県民が座り込み

カヌー83艇、抗議船11隻で海上から抗議

辺野古の海では25日、ヘリ基地反対協の呼びかけで「海上大行動」を展開。カヌー83艇と抗議船11隻に230人が乗船、過去最大規模で海上からの抗議行動を展開しました。午後1時過ぎからは辺野古の浜で270人の参加で連帯集会を開催。カヌーチームの諸見里直樹さん(うるま市、43歳)が「子どもの命を守るためにも負けてはいられない」と決意表明しました。空には抗議の73連の黒い連凧が勢いよく上がりました。



黒の連凧を操った名護共同センターの中正勇さんは「戦後73年間、喪に服している沖縄を表した。海、陸に加え、空からも不条理に抗議する」と怒りを表していました。

